

2018年6月7日 文京区議会本会議一般質問

みんなの・まちづくり 藤原美佐子

2018年6月定例議会にあたり、「みんなの・まちづくり」藤原美佐子。
今期四年の最終年、振り返りながら、最後の一般質問をいたします。

1 はじめに、8年間の区議会での経験から区長の政治姿勢について伺います。

(1) まず、的確なマスコミ対応と情報管理について、伺います

今年度予算案が報道されたことです。時限秘のかかった新年度予算案が、朝のNHKニュースで放映されびっくりしました。

区長は、「公表済み」であるとおっしゃいました。予算案の一部に公表済みの事項が含まれていましたが、予算案に時限秘がかかっていたのは確かです。区政にとって重要な予算案の議会審議。議員も解禁と同時に予算案の内容を伝達し、その是非・適否を真剣に問おうと思っていた矢先のマスコミ報道でした。拍子抜けと同時にがっかりし、ルールの重みもなくなりかねません。議会発表前の情報管理とマスコミへの告知の関係について、

区長の見解を伺います。

(2) 次に、国まかせでなく自らの主張を、という見地で伺います。

区長答弁には「国や都の動向を注視」といって、明言をさけ、決断しないことが多いのが気になります。

例えば、2014年に私の公共建築物への木材利用促進方針策定に関する質問に対し「引き続き、国や都、他自治体の動向を注視しながら、方針の策定については適切に判断する」とされ、その後、「環境に配慮した資材等の活用方針を盛り込む検討をしております」とされていますが、木材利用促進方針はどうなりましたか？ついでですが伺います。

新しい価値が錯綜する昨今は、個々の自治体が自分で判断していくことが大切だと思います。区長の見解を伺います。

さて、質問は大きく分けて、①みんなのまちづくりと行政の関わり。都市計画と再開発などについて、②災害に強い・区民に優しい、緑のまちづくり、③障害者への配慮で、皆に優しい街へ、です。よろしく願いします。

2 まず、みんなのまちづくりと行政の関わり。都市計画と再開発などについて伺います。

私は∞年前区議会議員になりましたが、そのときの関心は、近くの再開発問題だけと言ってもよかったですと思います。

「再開発で巨大なビルが建つようだ」近隣の、日照・風などに不安を持つ区民からは、なんでそんなに高くするのか？高くするとこういう弊害がおこる、どうするのか？と多くの声があがっていました。しかし、「できたらから検討する」など、具体的な解決策が示されないまま、計画は着々と進められてしまいました。経済合理性を優先する人たちと、区民の生活との関係は都市計画の基本問題です。

1960年代、ニューヨークのワシントンスクエア公園の真ん中を通るト車線の高速道路を走らせたたいデイベロッパや行政関係者の都市計画に対して、グリニッジ・ビレッジの住民と活動家たちは、「みんなの街を殺す気？」と、正式に異議申し立てをし、近隣住民たちとコミュニティを形成し、市を相手取り道路建設への反対運動を展開しました。その結果、公園を破壊する計画は流れました。

運動の中心にいたのは「主婦」でジャーナリストのジェイン・ジェイコブズです。もし、ジェイコブズがいなかったら、世界一エキサイティングな大都市・ニューヨークは、きつとずっと退屈だったろうと、いわれています。

それから50年たちましたが、市民と行政との関係はそのような経験を踏まえて発展をしてきたはずです。多様な人々が多様な視点で意見を述べ、よりよい暮らしを保障しようとする「文の京」文京区。行政が果たす役

割は重要です。今後、一部の人の利害ではなく「みんなが主役のまち『文の京』」を目指される区長の、まちづくりに関する基本的なお考えを、元町公園の保全活用事案、春日・後楽園再開発など踏まえて、まず、お聞かせ下さい。

(1) 春日・後楽園駅前地区市街地再開発の経験とまちづくり

当初、都に提出した計画で2013年に供用開始とされていたのが遅れて、早い街区で2019年、遅い街区は2021年。大きな事案は遅れるのが常でしょうが、今後同種の再開発事案があることを念頭に、市民と実施主体間の調整をする行政の立場で、今後、見直すべき点があれば、お聞かせ下さい。

さて、この地域は、その昔から河川の川底になっていた土地で、浸水リスクがありました。3月に東京都が公表した神田川流域浸水予想区域図では、時間最大雨量が114ミリから153ミリに改訂されています。それに応じ文京区ではどのような対応をお考えですか。伺います。

また、新しい街と地域とのつながり、という点で伺います。6月に公表された「文京区コミュニティーバスB―ぐる課題等分析委託報告書」では、複数路線の利便性向上の点で結節点が大切であり、移動先ニーズの中心がシビックセンターである、とされています。春日・後楽園再開発地の中通り区道の活用をB―ぐるの結節点として検討してはどうでしょうか。

バスターミナル機能のためには、いろいろ制約があるでしょうが、区民

に貢献する再開発にするために、柔軟に知恵をしぼるべきと考えます。お考えを伺います。

その他に、学校校区問題、保育施設の問題など、新しい街の住民と周りの住民との関係にからむ、さまざまな問題が今後想定されます。区民が主人公のまちづくり、をかかげる、区長の立場が試されると思います。お考えを伺います。

(2) 次に、元町公園を100年後も輝かせるために、いくつか伺います

文京区の都市計画でまちづくりといえば、忘れられないのは、旧元町小学校と元町公園の都市計画変更案が、 \blacktriangle 度の都市計画審議会をへて、市民の反対をうけて、早大の戸沼幸市先生のご尽力により廃案になり、歴史の継承と地域住民の連携であらたな事業が進むことになったことです。元町公園・旧元町小学校は、関東大震災復興計画の中で造成された、公園と小学校を一体化させた、区民の財産であるとともに都民の財産です。

今年具体的な事業のプロポーザル審査が始まる重要な時期だと聞きますが、都市計画変更案廃案に深く関わった区長の、この事業に関するお考えをお聞きします。現時点で、歴史性の継承と地域住民の連携に基づいて、具体的な事業が進むことが、「文の京を未来につなぐ」上で大切なことだと思いますが、いかがですか。

これだけ長くかかった功罪と申しましょるか、バリアフリーで車椅子の

入れる上方の入り口を是非実現して下さい。造作の変更は不要です。プロポーザル審査にむけて、次の100年に大切な財産として残るよう、歴史的の継承などの他に、新たな、障害者向けの利便性、ユニバーサルデザイン、などのニーズに対応すべきことと考えますが、いかがでしょうか。伺います。

(3) 次に、民泊問題を、長期的な都市計画の視点でしっかり管理を、という視点で、まちづくりの3番目として伺います。

オリンピックを2年後に控え、住宅宿泊事業法、改正旅館業法が来週9月15日に施行されます。区の条例、規則なども急遽改訂作業が行われました。拙速な制度改正のため、受け入れ体制が間に合わないのではないかと心配です。

民泊については解禁まで1ヶ月を切っても届け出がのびず、ヤミ民泊の潜在化が心配されています。実際、ある住居専用地域では、解体を待っていると思われていたマンションが、いつの間にかさまざまな国籍の外国人でいっぱいになり、言葉が通じないためゴミ出しのルールも守られず、管理人も不在で困っているとのことです。ネットでは実際に表示されているマンション名とは異なる名称でアップされていますが、その電話番号にかけても応答なし。こういう事例が今後増えるかもしれず、近隣としては非常に不安です。この場合は警察の関与を仰いだそうですが、警察の関与

後は区や近隣としてなすすべがないというのは不本意です。区長として何からの対応策をお考えか伺います。

また、警察の関与後も近隣として一定の口出しができる道を残しておきたいと思いますが、区長のお考えを伺います。

このように不安を抱える人が多いことが、各自治体の警戒感をあおり、厳しい縛りをはけるため、届け出が伸びず違法民泊がふえる、あるいは、民泊より逆に改正でゆるやかになった旅館に移行する、という悪循環になっているように思います。

これまで、都市計画の観点から地域ごとに一定の基準規則が施行されてきたものが、とりあえずの需要に対応するため、ないがしろになる危険を感じますが、今回の法律の施行と区の対応全般にわたって区長のお考えを伺います。

また、当面住民が不安に感じている、いい加減なゴミ出しや、管理者の常駐しないマンションで言葉が通じない、などについては、民泊に限らずウィークリーマンションなど、外国語表示を数カ国語できっちり表示させるよう、対応して頂きたいと思います。お考えを伺います。

3 次に、「災害に強い・区民に優しい・緑のまちづくり」ということで、具体的に質問をします

(1) まず、避難施設が足りない、計画的な避難施設対策を、という視点

で災害対応について伺います。

すこし古い話になりますが、文京区は避難施設の容量が区民の人口に対して23区で一番少ない、という朝日新聞1月29日号の記事をみて、文京区の避難施設の整備に問題があるのではないかと心配になりました。この記事は実は裏付けに問題ありとの意見もありますが、今人口は増えるがまま、道路はひろがらず、無電柱化もすすまずとなると、無理でも在宅避難やむなしとなる可能性大です。しかし、東日本大震災の時、上階の自宅マンションに帰れず低層階にとどまらざるをえなかつたという話も聞きました。特に高齢者の場合、不安で高い階へは行けないということもあります。

避難施設の整備の実態について、区長はどのような認識ですか。どのような計算でどの程度の避難者を想定し、整備をすすめていくのでしょうか？伺います。

特に、集合住宅の避難者問題は高層マンションの高齢化世帯など先例の被災地をみても大切な課題です。集合住宅の避難計画はどうなっていますか。文の京を未来へつなぐ、避難施設の整備計画が、必要かと思いますが、伺います。

(2) 次に、避難施設と無電柱化について伺います。

無電柱化が法制化されたのを受け、文京区も計画策定に入っているようですが、景観問題とともに、災害対策に関連して重要な課題だと考えます。特に避難所となる学校に、電柱が倒れていることで、避難物資が運べないことを想定することが重要です。

避難施設の周辺など重点的に対応する必要があると考えますが、どうお考えですか。伺います。

誠之小学校の改築について事業が進んでいますが、避難施設としての役割が期待される中で、無電柱化計画は組みこまれているのか伺います。

前面道路の幅が狭いことからうまく敷地内に組み込んで設計することで、小学校だけでなく向かい側の第一幼稚園の安全化も図れるよう、よく地元の住民と連携をとって、検討をお願いします。

(3) 次に空き家を資源にという視点で伺います

まちづくりの具体策、②番目は空き家対策です。空き家対策特別措置法の施行にともない、文京区でも対策計画の基準を作成しています。危険な空き家をどうするかが主なテーマです。人が住んでいても老朽化して危険な家もありますが、他方で、空き家を資源として活用していく活動が大切になっています。文京区では地価が高いので、空き家にならず、売却建替に進むといいますが、長期的視野では、また都市計画的視野では、将来の人口減を見ずえると、地域の資源とした方が有効といえないでしょうか。

お考えを伺います。

世田谷区に先進事例があります。

- ・世田谷らしい空き家等の地域貢献活用助成事業

- ・世田谷区空き家等地域貢献活用相談事業という内容ですが

区内の空き家・空室を地域の資源と考え、高齢者対策子育て対策など、地域コミュニティの活性化・再生につながる公益的な活用を進めていくため、オーナー向けの相談窓口が設置され、①高齢者同士や子育て世代等多世代の交流スペース、②若手アーティストを応援するまちのギャラリー、③市民にひらかれたDIY工房など、多岐にわたるメニューです。こういった企画に対して、助成事業がおこなわれています。

「文の京を未来へつなぐ」空き家等の地域貢献活用と相談窓口の設置を是非検討してください。

(4)次に、生物多様性地域戦略を緑のまちづくりのために考える取組です

今回初めて、生物多様性地域戦略を作成することとして準備をされています。都市の生活が自然と共存することをみんなで考える、「文の京を未来へつなぐ」上で、大切な作業だと思います。

まず、どのような方針で臨むのか区長のお考えをお聞きします。

特に文京区には大きな緑のつながりがあります。

それを実感しながら、身近な緑との関係が生物多様性の観点へと展開することが大切です。私の住む西片にも、「大椎の木の会」という、身近な緑を大切にしている運動があります。こうした運動を担う人と連携し、運動を推進する仕組みを是非作って下さい。

また、今回の策定方針の6番目に「身近な生物多様性を感じることできる空間・仕組みを構築する」とありますが、どんな仕組みを構築しようとしているのですか、伺います。

また、土木部で担当している、緑の基本計画がありますが、今回の戦略との関係はどのようになりますか？

今回の地域戦略は地球環境とも関連した重要な計画であり、今回の戦略の基に緑の基本計画などが位置づけられるようにすべきだと思います。いかがでしょうか？伺います。

(5)この項目の最後は、都市公園はこのままでいいの？というテーマでの質問です

都市公園法が改正され公園の使い勝手が良くなり便利になりましたが、都市公園はもとよりまちづくりにとっての重要な資源です。

いろいろなことが、都市公園に持ち込まれます。その一例が、礪川公園の子育て施設ですが、3年という期限取組みだったものが、さらに5年延

長して利用されることになりました。

今にして思えば、当初からその可能性も考えられていたように思えます。公園を他の用途に利用することを全面的に否定するわけではありませんが、緊急避難でなく長期的に考えるのであれば、都市公園の景観や動植物にも配慮しながら、公園本来の機能を生かし、しっかり対応していく必要があります。

みどり、木のぬくもりなど、子どもや公園利用者の視点からよく検討し、都市公園機能がより高まるようお願いします。お考えをお聞かせ下さい。

4 最後に「障害者への配慮で、皆に優しい街へ」という視点で伺います。

(1) まず、シビックセンター改修計画―障害者からみたまちづくりです。

シビックセンター改修方針(2014年3月)の中で、防災拠点としての機能向上、ユニバーサルデザインの充実等により来庁者の利便性を向上させることが指摘されていますが、今後の改修計画はどうなっていますか?伺います。

特にユニバーサルデザインの心点が提示されています。

(1) わかりやすいサイン表示

(2) エレベータの機能改善

(3) トイレの利便性向上

私も障害者の視点でトイレの引き戸がすぐ閉まると電動車椅子ではむずかしいなど、さまざまな指摘をさせて頂きましたが、具体的にどのような課題があり、どんな計画を検討されているのか、スケジュールとともに、伺います。

(2) 次に、障害者への「合理的配慮」みんなに優しい町へ、という視点で伺います。

障害のある議員がどのように議会活動を進めていくか議論して頂きます。

した。私が障害を得ても議員を続けているのは、色々な困難な立場にたたされて、ますます、要望したいことが多くなったということもあります。区長は今後、事態に応じて色々議論は続けていくが、障害者議員へのサポートはまず、議員の中で、という方針です。懸案になっていた、3月の予算委員会では、同じ予算委員の海津議員に隣席について頂き、審議の進展に応じた対応の仕方や、書類の整理などサポートして頂き、何とか乗り切ることができました。

でも、サポートする議員がいなければ、予算委員会の審議に対応できない状況になるのでハラハラしました。また、本来の議員独自の仕事の妨げにならないかハラハラもしました。とても、制度として合理的配慮ができているとはいえませんが。補助者の 同席を認めないという合理的根拠があるとは思えません。議事を準備するまえの課長ヒアリングは、もちろん議員でないとサポートできない場合があります。議員出身で議長経験者である区長です。補助者の同席など、制度的に担保されるように、是非、積極的な考えをお聞かせ下さい。

議員に対する合理的配慮は、とりもなおさず、区民に対する配慮でもあります。どこにも負けない、障害者に優しい、文の京を未来につなげて頂きたいと思います。

5 以上ですが、おわりに申しあげたいと思います。

最初にお話しした、ニューヨークの巨大開発、公園の真ん中を走る高速道路計画に挑んでやめさせた、「主婦」でジャーナリストのジェイン・ジエイコブズのことばをわすれません。この「主婦」はかつこ付きで、当時の都市計画の専門家と、単なる素人を対比させるためにあえて使ったものです。都市計画のプロではない単なる生活者という意味を込めて「主婦」をあえて使っているのだと思います。

そのジェイコブズの言葉とはこうです。

「街はいろんな人がいるからこそ、いろんな形のいろんな時代の建物が
あり、路地があつて、人々が有機的に動いているからこそ、多様性があり
安全で、楽しいのよ。あんたは街を殺す気？」

50年たったいまでも大切なメッセージだと、私は思います。

みんなのまちづくりの一般質問を終わります。ありがとうございました。